

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	医療法人社団 洛和会	代表者	矢野 一郎	法人・ 事業所 の特徴	母体は京都市山科区にある音羽病院の介護事業部門の施設。同会においては市内で5番目、平成26年4月にここ竹田・住吉学区で初めての小規模多機能サービスとして設立。「地域に頼りにされる施設」をモットーに日々、取り組んでおります。また月々定例の催しを開催して活発な地域交流が自慢の施設です。
事業所名	洛和小規模多機能 サービス伏見竹田	管理者	石野 和宣		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	1人	1人	人	人	1人	人	人	人	人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	地域連絡会の参加やネットワークなどその他のサービス機関との関わりを議事録だけではなく職員にも参加してもらうことで連携の大切さを理解してもらう。	事業所の自己評価に関して職員が全員で取り組むことができています。サービス評価に対しての理解もあり、評価もスムーズにできています。	事業所の自己評価に関して職員全員で取り組んでいることは理解できるが常勤・非常勤が誰なのかが分からない。	サービス評価に関しても複数回になるので慣れてはきているが同じ評価の繰り返しにならないように意見を出し合い評価していく。
B. 事業所のしつらえ・環境	外部からの来訪や施設の外でも、笑顔で挨拶を行い装飾などで施設の明るい雰囲気を伝えられるようにする。	吹き矢やカフェなどのイベント以外でも地域の方が来られることも増え、職員とも楽しくお話することができています。	誰でも気軽に相談でき、事業所内に入り易い様な雰囲気づくりをして行ってもらいたい。	誰もが入り易い明るい事業所づくりを継続して行っていく。挨拶が積極的にできる。
C. 事業所と地域のかかわり	見学会、吹き矢、カフェに参加された地域の方に、アンケートをおこない地域の方のニーズがわかる取り組みを行う。	事業所内でのイベントの時にイベントが終わった後などいろいろとお話をしながら意見を聞くことができた。新規の方も何人かは来られている。	吹き矢やカフェなどイベントを開催している時に通りすがりでも気軽に入れるように立て看板をしてみるなど工夫をしてみてもどうか。	イベントの告知など地域に向けて積極的に行い、地域に向けて事業所を知って頂くとともに気軽に入って頂ける事業所づくりをする
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	介護制度について、分かりやすく説明できる時間を作り事業所から情報を発信できるような取り組みも行って行く。	吹き矢やカフェの後など介護相談の時間を作ることもでき、小規模多機能のサービスに関しても多少の理解をして頂くことができた。	近隣の心配な方などどういった方が心配な状態なのかかわかりにくいところがあるので教えてほしい。	ご利用者と散歩に出かけたり、地域のイベントに出かけたりすることが少ないので積極的に出かけられるようにする。
E. 運営推進会議を活かした取組み	報告会だけに収まらず、地域の課題にむけて事業所でなにが出来るかを会議の中心として話あっていく。現場の職員や地域の方、利用者家族など参加人数を増やし意見を求める。	何度か他職員も参加できたがほとんど事業所からの参加が管理者中心になっている。家族の参加は難しいことが多い。	地域の意見を聞いたり、活動に関して様々な話ができるので色々な職員が参加して意見を出し合う環境を作って欲しい。	事業所のことだけでなく地域の心配事などを気軽に話し合える場所を作る。管理者以外の職員も参加する。
F. 事業所の防災・災害対策	消防署とも連携をとり、防災、災害活動に事業所と地域とともに取り組む。 【防災訓練・災害時訓練・に参加の声掛け】	ネットワークを通じて防災に関して消防からの話を聞いたり意見を出し合うことができた。	今年は地震や台風などが多く、災害に関して考えるきっかけとなった。今後も事業所として出来ることを考えていってほしい。	地域の防災訓練にも参加し、地域と協力して防災対策に取り組む。